

神奈川県生活協同組合連合会 新年賀詞交換会開催にあたって

この度は「神奈川県生活協同組合連合会 新年賀詞交換会」の開催、誠におめでとうございます。本日は諸事情により参加が叶わず、申し訳ありません。神奈川県生協連の皆様には、2016年にヒバクシャ国際署名がスタートして以来、今日までに本当に多くの署名を届けていただいております。文面でのお礼となり大変恐縮ではございますが、心より感謝申し上げます。

年明け早々、中東では明日にも戦争が始まろうとしています。現代において、戦争によって傷つくのは軍人だけではありません。子どもや女性、お年寄りを含めた多くの民間人が命を落とします。このイラン問題の火種となっているのは核兵器です。あらためて、すべての国の核兵器を禁止する核兵器禁止条約は必要だと痛感します。

ICANによれば、核兵器禁止条約は年内にも50カ国の批准に到達し、発効されます。発効後も、当面は核兵器国と日本を含むその同盟国が参加しない状況が続くと思われまます。しかしながら、条約ができた後、核兵器は世界の誰から見ても「必要悪」ではなく「絶対悪」の兵器となります。対人地雷やクラスター爆弾など、これまで禁止されてきた大量破壊兵器の先例を見ても、条約が発効されたのち、流れは禁止の世論は大きくなりました。

条約の発効の次に私たちに課せられたステップは、「世界の人々にとっての核兵器の価値観を変えること」です。残念ながら、日本国内にも核兵器による核の傘は必要だという声は絶えません。核兵器をいざという時に使うということは、いざという時には自分が第三の被爆地を生む加害者になるということです。私たちは改めて、広島・長崎の被爆者の被爆体験に耳を傾け、被害のリアリティを想像しなくてはなりません。核兵器がいかに非人道的で、悪魔の兵器であるという価値観を広げるためには被爆者の声とそれを広げる私たちの役割が不可欠です。

「核兵器なき世界」は、私たちが望めば選び取ることができます。次の世代の子どもたちを核兵器による恐怖から解放できるのは私たち大人です。今年は戦後75年、被爆者の平均年齢は83歳になります。立ち上がるのは、今です。

常に弱き人々にまなざしを向けながら、情熱を持って活動を続ける皆さんに心より敬意を表します。ヒバクシャ国際署名にも一層励んでいただき、活動最後となる今年もたくさんの署名を届けてください。

最後に、神奈川県生協連の皆様のご活躍を祈念致します。

2020年1月7日

ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー

林田 光弘